群馬県立小児医療センター新病院建設工事に係る基本設計業務委託
技術提案書提出者選定及び技術提案書評価要領

本業務に係る資格審査及び技術提案書の評価については、群馬県立小児医療センター新病院建設工事に係る基本設計者選定プロポーザル業務説明書（以下「業務説明書」という。）の内容（評価のウェイト等）及び以下により行う。

1. 評価の方法

技術評価点は、評価項目ごとに以下 2 及び 3 に示す評価点に、技術提案書の提出者を選定する際には業務説明書 6 の評価のウェイトの数値を乗じて算出し、また、技術提案書を特定する際には業務説明書 1 2 の評価のウェイトを乗じて算出する。

2. 技術提案書提出者の選定要領

(1) 専門分野の技術者資格

下表により評価する。

分担業務分野	評価する技術者資格	評価点
総合	一級建築士	1.0
	その他	0
構造	構造一級建築士	1.0
	一級建築士	0.4
	その他	0
電気	設備一級建築士	1.0
	建築設備士、技術士又は一級建築士	0.4
	その他	0
機械	設備一級建築士	1.0
	建築設備士、技術士又は一級建築士	0.4
	その他	0

※海外の資格については、当該資格と同等であると判断できる説明資料が提出された場合、上表の当該資格と同等の評価点を付す。

※参加表明書提出時点において建築士法第 2 2 条の 2 に定める期間内に同条に定める定期講習を受講していない場合（建築士法施行規則第 1 7 条の 3 7 第 1 項第 1 一級建築士定期講習の項イ（同条第 2 項及び第 3 項において準用する場合を含む。）に該当する場合を除く。）、建築士としての資格を評価しない。

(2) 平成 2 7 年 4 月 1 日以降に完了した配置予定技術者の同種又は類似業務の実績

過去の実績 1 件を下表により評価する。

a) 同種業務=1.0、類似業務=0.5、実績なし=0 とする。

b) 携わった立場

過去の実績における立場	管理技術者の 実績評価の場合	主任担当技術者の 実績評価の場合
管理技術者又は これに準ずる立場	1.0	1.0
主任担当技術者又は これに準ずる立場	0.5	1.0(※1)
担当技術者の立場	0.25	0.5

※1 当該実績の主たる分担業務分野が、本業務での分担業務分野と同じ場合に限る

c) 実績について a)×b)を算出した値（小数第 2 位まで。四捨五入。）を「平成 2 7 年 4 月 1 日以降に完了した業務実績」の評価点とする。

(3) CPD

CPDの評価は、下表による。

CPD取得単位	評価点
40単位以上	1.0
20単位以上40単位未満	0.7
10単位以上20単位未満	0.3
10単位未満	0

3. 技術提案書の評価要領

(1) 業務の実施方針及び手法

提出された技術資料、ヒアリングの内容をふまえ、審査委員の主観的評価により総合的に判断を行う。評価点は各審査委員の評価点を平均して算出する（小数第2位まで（四捨五入）とする。）。「業務の理解度及び取組意欲」、「業務の実施方針」及び「評価テーマに対する技術提案」のいずれかの評価において、採点を行った委員の評価点の平均が0点である場合は、特定しない。

評価の着目点	評価事項	各委員の評価点				
		1.0	0.75	0.5	0.25	0
業務の理解度及び取組意欲	業務内容・業務背景・手続の理解度、積極性をもとに総合的に判断する。	極めて良好	良好	普通	やや低い	低い
業務の実施方針の的確性・実現性	業務の取組体制、設計チームの特徴（協力体制・業務分担体制等）、特に重視する設計上の配慮事項等について、的確性、実現性を総合的に判断する。	極めて高い	高い	普通	やや低い	低い
評価テーマに対する技術提案の的確性・実現性	設定したテーマに対する技術提案について、的確性（与条件との整合性が取れているか等）、実現性（提案内容が理論的に裏付けられており、説得力のある提案となっているか等）を考慮して提案ごとに総合的に判断する。	極めて高い	高い	普通	やや低い	低い

(2) 地域精通度

以下に該当する場合、地域精通度を評価する。

種別	評価点
単体企業が県内企業である場合	1.0
県内企業を設計共同体構成員とする場合（県内企業の出資割合に応じる）	設計共同体による技術提案書の提出者のうち、県内企業の出資割合が一番高い者を1.0とし、割合無しを0として直線補間にて算定する（小数第2位まで。四捨五入。）。
単体企業が県外企業である場合 県外企業のみで構成された設計共同体の場合	0